

2017年11月1日

ベトナムに住んで感じる光と陰

京都大学 名誉教授
IIMA 客員研究員 森 純一

2年間の予定でベトナム・ダナン大学で教鞭をとって、1年が経った。ダナン市はベトナム中央に位置し、人口100万人強の都会である。ダナンでは11月にAPEC首脳会議が開催される予定で、街中にはAPEC歓迎の大きな看板が立ち並び雰囲気盛り上げている。生活のなかで感じるこの国の強さ弱さは、日本で書物から得た知識とは違う。日々、新鮮な発見がある。今日は三つのことを書こう。

第一は、日本の高度成長期のような街の熱気である。国民は若い。ベトナム経済は毎年6%を越える成長を遂げており、ダナンでも人々の購買力の高まりを実感する。世界的ブランドも進出し、国際価格のレストランにもベトナム人客がたくさん入っている。

第二は、順風満帆に見えるなかで感じる、インフラ投資の不足と納税意識の希薄さである。急速に進む工業化、都市化のなかで、ゴミ処理、上下水道、通信交通網の充実など、日本で数十年かかった膨大な投資をきわめて短期間で実施せねばならない。しかし、膨大なインフラ投資を実施しようにも財政事情は厳しい。国民の納税意識は決して高いとは言えず、ダナン市についても毎年10%の経済成長を遂げているはずの市の財政収入が減少する年度がある。市の財政が不安定な土地売却収入に過度に依存しているのか、脱税があるのか、実態はよく分からない。

第三に、ベトナムの通貨ドンについての不安である。アジア危機やリーマンショックでもドンの減価は限られていた。現状ではドンの為替相場はベトナム中央銀行の管理下で安定した推移を辿っている。しかし、国内での決済は自国通貨のドンが原則であるにもかかわらず、いざとなると米ドルで受け取りたいと希望されることがある。自国通貨ドン、あるいは政府に対する国民の根強い不信感が根底にはあるようだ。

ベトナムの国際収支統計にその不安の原因が見てとれる。貿易収支は多国籍企業の輸出の貢献で黒字基調である。サービス収支の赤字や海外への金利・配当金支払いは大きい。海外在住ベトナム人の郷里送金がこれを補っている。従って経常収支は黒字である。資本収支を見ると、直接投資は大きな流入が続いている。しかしこれに匹敵するような大きな資本流出がある。居住者の外貨預金を通じての合法的な外貨流出と多額の誤差脱漏

に隠された非合法的な外貨持ち出しである。国内金融市場の深化は進んだものの、米ドルの役割は決して小さくなっていないという現実がある。

将来、世界景気鈍化による貿易収支の悪化や直接投資の流入が減少すれば、この国ではたちまち資本流出が加速するのではないかという不安が頭をよぎる。ちなみにこの国の外貨準備は安全ラインと言われる輸入総額の3ヶ月分に満たない。チェンマイイニシアティブなど国際的セーフティネットの強化やインフラ投資資金の安定した供給が、ますます求められていると感じる今日この頃である。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2017 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>